

《企画意図》 吸殻について、ポイ捨てしなければ構わないだろうと考えている喫煙者は少なくない。私達はリサイクル工場へ取材に行き、そういった吸殻の入った缶が1ヶ月当たり約4700缶も搬入されることを知った。空き容器に混入する異物により作業員は日々危険に晒されている。この広告を通して吸殻の処理について今一度考えてほしい。(東京音楽大学 外立 真士)

空き缶にタバコを捨てている
手元のアップ。



タイトル
「空き缶にタバコを入れて
捨てていませんか？」

富士見クリーンステーションの
外観が現れる。



タイトル
「Q 異物混入の容器は
どのくらい搬入されますか？」

前橋市職員の男性が
質問にこたえる。



前橋市職員
「平均しますと、月に5キロぐらいですね
その中には注射針だとか
タバコが入ったものが多いですね」

ベルトコンベアに
流れてくる空き缶ゴミを
チェックする。



タイトル
「Q どんな異物を
危険に感じますか」

異物が入った
空き缶ゴミ。



前橋市職員
「特に危険なのは注射器
あとは刃物とカッターだとか、
そういう鋭利なものですね」

字幕スーパー
「リサイクルのルールを知ろう」



タイトル
「Q ごみを捨てる際、
気をつけて欲しいことはありますか」

ACジャパンのロゴが現れる。



前橋市職員
「徹底した分別ですね。
ゴミ袋に入れたことによって
ゴミはおしまいでなくて、
その後に処理する人がいるってことも
想像してもらいたいと思います」

♪
ACジャパン

《寸評》 吸殻の処理に関する気づきにつながる作品。これまでの学生賞ではドキュメンタリー作品は少なく表現として価値は高く、真実の力が強い。自分で興味を持ったテーマを実際にリサーチして、真摯に伝えている姿を評価したい。完成度が高く、役立つ広告である。